

# 平成29年度 学校評価のまとめ

瑞浪市立釜戸小学校

## 1 子ども一人一人の学力の向上

重点目標と指標	評価	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評価
<p>1) どの子ども「分かった」「できた」と実感できる授業を工夫します</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校体制で算数科の授業改善に取り組んできた。児童に力を付けるために、学び直しの時間の確保、算数科の学び方の定着、終末の時間の確実な見届けを行ってきた。</li> <li>○ブロックでの授業研究、指導案の検討を重ねることで、教員の指導力が向上した。児童は既習の学習を活用して新たな考えを導いたり、仲間と交流して自分の考えを深めたりする学び方が身に付き、意欲的に学習することができた。</li> <li>○授業の終末の時間に評価問題を位置付けたことで、一人一人の定着状況が確実に見届けられた。児童は、本時学習した学習内容の達成度を自分自身で確認することができた。</li> <li>●「伝える力」をさらに高めていくためにも、授業の中で交流する場を確実に位置付け、指導を継続していく必要がある。</li> </ul>	<p>①授業の課題を子どもと確認し、1時間で学ぶことが子どもにもわかる授業づくりをすることで、「できた」「わかった」が実感できる授業づくりをする。</p> <p>②授業の中で表現する時間を意図的に位置付けることで「伝える力」を高める指導を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・单元ごとの指導に力を入れ、児童が確実に力を付けてきたことが一人一人の喜びにつながったのではないかと思う。</li> <li>・児童ができたことと喜びを感じることは今後の学びに大きく影響すると思われるので、今後も続けてほしい。</li> </ul>	A
<p>(2) 基礎基本の定着を図ります</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字検定や算数検定の実施により、一人一人の児童の定着状況把握し、個に応じた働きかけをしてきた。</li> <li>○児童が自分なりの目標をもち、努力することができた。</li> <li>○算数科では、ねらいに合わせて1時間の授業の流れを工夫したことにより、長めに確保された練習時間で「できた」と実感できるようになった。</li> <li>○夏休みだけでなく、日頃から時間を見つけて、宿題ができていない児童や学習理解の遅い児童に対して、粘り強く指導することで、基礎的な力が定着しつつある。</li> <li>●県 web system の活用は個々の学力の定着状況を見届ける点で効果的であり、家庭を巻き込みながら活用できるようにしていきたい。</li> </ul>	<p>①漢字の検定や算数の検定を毎月（年間各8回）昼休みに行き、学習したことの定着確認するための時間を設ける。また、算数では県 web system を活用し、個々の学力の定着を見届けると共に子ども自身が主体的に学習できるようにする。</p> <p>②放課後や夏休みなどに個別の学習指導を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定を行うことで学習の成果を確認することができ、その後の学習の励みになっていると思う。</li> <li>・家庭と協力して取り組んでいくことが大切だと思う。</li> </ul>	A

<p>(3) 学校での読書指導を充実させます</p>	<p>①読書をする習慣が日常的に定着するよう工夫します。 (読み聞かせ, 図書館祭り, ブックトーク, 学級の読書コーナーの工夫)</p> <p>②個々の読書の実態を把握し, 図書館の充実と適切な読書指導に努めます。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館祭りや図書委員・教師・母親委員の読み聞かせ, ブックトーク, 図書館の本の展示などにより, 常に児童の生活の身近に本がある環境を整えた。</li> <li>○全校体制で図書館の本の利用指導を進めてきたことで, 児童の読書の幅が広がってきた。</li> <li>○ 図書館のソフトを利用して月ごとに個々の読書の状況をデータ化し, それを生かした指導が行われた。個別指導により読書量や質を高めることができている。読書冊数は, 11月現在で目標冊数を達成している。</li> <li>●読書の実態にはばらつきがあり, 本を借りても家庭で読まない児童もいる等, 指導が必要である。家庭と連携しながら, 本に親しむ心をさらに育てていきたい。</li> </ul>	<p>①読書をする習慣が日常的に定着するよう工夫する。 (読み聞かせ, 図書館祭り, ブックトーク, 学級の読書コーナーの工夫)</p> <p>②個々の読書の状況を把握し, 家庭への働きかけを工夫し, 家庭と連携しながらよりよい読書生活につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書は勉強の後回しにされがちだが, 意識して取り組んでいることがよい。</li> <li>・学校を通して, 子どもは本と触れ合う機会ができています。しかし, アンケート結果では意外とC・Dの評価が多いので, 働き掛け方を工夫していく必要がある。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>【学校関係者評価を受けての学校の改善策】</p> <p>①授業の中で表現する時間を意図的に位置付けることで「伝える力」を高める指導をする。</p> <p>②図書館と各教科の学習をつなげ、自ら進んで課題を解決しようとする気持ちを育てていく。</p> <p>③検定や県web systemに取り組むことで、児童が自分自身の学習課題を把握し進んで学習できるようにしていく。</p>					

## 2 あたたかい人間関係を築く指導や援助の充実と社会性が高まる教育の推進

平成29年度 教育方針と改善点	謬	目標の達成状況・取組状況・結果分析	来年度の指標	学校関係者評価委員会から	謬
<p>(1) 個々の思いを把握し, あたたかい人間関係をつくるよう努めます</p>	<p>A</p> <p>①心の悩みアンケートを継続し, 人間関係のトラブルやその子の悩みを把握し, 個別に懇談する機会を設け, 早期対応, 早期解決に努めます。(毎月, 心の悩みアンケートを実施します。)</p> <p>②道徳の授業を核とし, 正しいことが当たり前に行ける学級づくりに努めます。</p> <p>③いじめのない学級・学校づくりに積極的に取り組みます。作成したマニュアルの見直しも随時に行っていきます。(いじめにかかわる未解決事案0をめざします。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月心の悩みアンケートを行って, 実態把握に努めた。</li> <li>○アンケートからつかんだことをもとに, 児童と面談を行い, 具体的に話を聞いて指導してきた。また, トラブルがあったときには, 組織で早期対応することにより, 解決してきた。</li> <li>○道徳の時間を通して自己を見つめたり, 道徳コーナーを活用したりすることで, 仲間を大切にする指導を継続することができた。</li> <li>○いじめの未解決事案は, 0の状況である。</li> <li>●いじめや人間関係のトラブルの芽はたくさんある。小さなサインも見逃さないようにするために, 教員研修も充実させ, 早期発見, 早期対応に心掛けていく必要がある。</li> </ul>	<p>①心の悩みアンケートを継続し, 人間関係のトラブルやその子の悩みを把握し, 個別に懇談する機会を設け, 早期対応, 早期解決に努める。(毎月, 心の悩みアンケートを実施する。)</p> <p>②考え, 議論する道徳の授業を展開することで, 自分の考えや感じ方を明らかにし, 日常生活につなげていく。</p> <p>③いじめのない学級・学校づくりに積極的に取り組む。作成したマニュアルの見直しも随時に行っていく。(いじめにかかわる未解決事案0をめざす。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの結果から A と回答している割合が高く, よく配慮していることがわかる。</li> <li>・本当に悩みがあっても自分から言わない子もいるので, 少しの変化に気づくことができるよう意識を高めてほしい。</li> <li>・高学年になると特に対応が難しくなるので, 早期対応のためにアンテナを広げてほしい。</li> </ul>	<p>A</p>

<p>(2)登下校時の見守りや分団指導を行います</p>	<p>①登下校の様子に関する情報を積極的に収集することで実態を把握し、指導の徹底を図ります。 ②分団の班長と担当指導者との連絡ノートを活用し、安全面やあたたかい人間関係づくりの面で担当指導者が常に指導するようにします。 ③毎朝の登校指導・月2回の下校指導を実施します</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の実態をこまめにつかみ、必要に応じた指導を行った。交通安全や人間関係のトラブル防止を努めたりした。</li> <li>○登校指導で得た情報は生徒指導が集約し、必要に応じて分団を集めて指導したことで、大きな事故やけがにつながらずにすんでいる。</li> <li>○毎週、班長が担当の先生とノートを通して情報を伝えていた。それをもとに担当からの指導も行われ、安全に登下校する意識をもてるようになってきた。</li> <li>○集団下校の際、生徒指導より安全指導についての話をすることにより、児童にポイントを絞った指導を行うことが、安全への意識の向上につながることができている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●特に下校は安全面から配慮することがある。家庭と連携をとりながら、実態把握、早急な対応をする努力をしていきたい。</li> <li>●登下校時の挨拶について、児童の意識を高めていきたい。</li> </ul>	<p>①登下校の様子に関する情報を積極的に収集することで実態を把握し、指導の徹底を図る。 ②分団の班長と担当指導者との連絡ノートを活用し、安全面やあたたかい人間関係づくりの面で担当指導者が常に指導する。 ③毎朝の登校指導・月2回の下校指導を実施する。 ④委員会で働きかけを通して、仲間や地域の方に進んで挨拶をする子を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の登校指導があり、大きな事故につながっていないと感じた。</li> <li>・アンケート結果ではC・Dが多かったので、先生の指導と子どもの意識に温度差を感じた。</li> <li>・特に下校時の指導を強化してほしい。</li> <li>・見守りは学校だけでなく、地域・家庭も連携し、地域単位で話し合っているといける。</li> </ul>	<p>B</p>
<p>(3) 学校からの情報発信と保護者からの情報収集に努めます</p>	<p>①温かい人間関係づくりや安全指導に関わる指導内容を積極的に保護者の皆様にお知らせします。(学校での指導内容をご理解いただき、家庭や地域でもそれを大切にして指導していただく。) ②保護者や地域の皆様から学校に情報を提供していただけるよう働きかけます。(家庭や地域で心配なこと、気づいたこと、子どもの良い姿などの情報を教頭までお寄せください。 (年間2回、ハッピーメッセージを募集します。)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信や連絡帳、直接電話での連絡やメルマガなど、適宜必要な媒体で連絡を取ってきた。</li> <li>・ホームページをほぼ毎日更新し、児童の活動の様子や頑張りが家庭や地域に伝わるようにした。</li> <li>○担任から家庭にこまめに連絡をとり、家庭と協力して子どもの育ちを支えられるように努めてきた。保護者は学校の教育活動に協力的である。</li> <li>○ハッピーメッセージを地域や保護者から寄せていただくことができた。校内だけでなく、家庭や地域から頂いたメッセージにより、自分に自信をもって前向きに取り組もうとする気持ちが育ってきている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今後も保護者や地域の方から情報を得られるようにし、家庭や地域と協力し合える関係づくりをしていきたい。</li> </ul>	<p>①温かい人間関係づくりや安全指導に関わる指導内容を積極的に保護者に知らせる。(学校での指導内容をご理解いただき、家庭や地域でもそれを大切にして指導していただく。) ②保護者や地域の皆様から学校に情報を提供していただけるよう働きかける。 (年間2回、ハッピーメッセージを募集する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釜戸小のホームページは、ほぼ毎日更新されており、保護者に様子がよく伝わっていると思う。</li> <li>・ハッピーメッセージは子どもの素晴らしさが皆に伝わるので、子どもが自信をもてるよい取組である。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>【学校関係者評価を受けての学校の改善策】</p> <p>①心の悩みアンケートを実施し実態把握に努めるとともに、問題があった時には素早く組織で対応できるようにする。 ②お互いのよさを認め合える取組を各学級で位置付けるとともに、道徳や学級活動を通して、よさの見届け方が高められるように指導する。 ③家庭や地域と連携し、自分自身のよい所に気づき、自信をもって行動できるようにしていく。</p>					

### 3 家庭や地域と連携し、地域とともに歩む学校

平成29年度 教育方針と改善点	論	目標の達成状況・取組状況・結果分析	来年度の指標	学校関係者評価委員会から	論
<p>(1) 家庭学習の習慣化と生活習慣の充実をめざします</p>	<p>①「家庭学習のすすめ」の積極的・継続的な活用と釜戸校区教育週間の充実を図り、家庭での過ごし方について家庭と一緒に考え、家庭学習の習慣化や読書の充実に寄与します。 (年間3回の家庭教育週間を実施します。)</p> <p>②PTAと連携し、ゲーム時間やPC使用時間、携帯電話等による情報モラル・ルールづくりについて一緒に考え、生活習慣のさらなる改善を図ります。同時に、家庭での読み聞かせや親子読書の習慣化を図ります。</p>	<p>・幼小中一貫教育推進協議会の場で、家庭教育週間について確認した上で地域ぐるみで実施してきた。</p> <p>○家庭教育週間の取組で、児童の意識が高まってありがたいという保護者の意見があった。取組のよさや効果について知らせることで、意識が高まりつつある。</p> <p>○PTA教育講演会の情報モラルの講演会により、保護者が正しい知識について学ぶことができた。</p> <p>○家庭読書の習慣化に向けて、PTA母親委員会が「おすすめの本」を募集し掲示する等、保護者を巻き込んだ取り組みをすることができた。</p> <p>●家庭学習や家庭での読書については、家庭によって意識の差がある。今後も家庭学習の習慣化や家庭での読書の大切さについてPTA活動とも連携して、保護者に理解してもらえるように働きかけをしていく必要がある。</p>	<p>①「家庭学習のすすめ」の積極的・継続的な活用と釜戸校区教育週間の充実を図り、家庭での過ごし方について家庭と一緒に考え、家庭学習の習慣化や読書の充実につなげる。高学年はより学習内容にシフトした取組にする。 (年間3回の家庭教育週間を実施)</p> <p>②PTAと連携し、ゲーム時間やPC使用時間、携帯電話等による情報モラル・ルールづくりについて一緒に考え、生活習慣のさらなる改善を図る。同時に、家庭での読み聞かせや親子読書の習慣化を図る。</p>	<p>・家庭教育週間は子どもも親も学習に集中するように意識づけられていてとてもよい。</p> <p>・スマートホン・ゲーム等の情報機器の使用について、家庭でルールづくりをすることをより進めていく必要がある。</p>	A
<p>(2) ふるさと教育を充実し地域とともに歩む教育活動を行います</p>	<p>①家庭科、野菜作り、地域の自然や歴史の学習において地域の人材を積極的に活用します。</p> <p>②地域にある資源を教材化し、地域をより知っていく教育を進めます。</p>	<p>・今年度も保護者や祖父母の方などに、運動会前の草取りやスケート教室のボランティアをお願いすることができ、地域の方々に支えていただくことができた。</p> <p>・全ての学年が地域の自然や歴史などとふれあえる学習を展開し、地域の先生から様々なことを学ぶことができた。</p> <p>○地域学習を通して、地域に愛着をもつ心が育ってきている。</p> <p>○PTA教育講演会では地域の方と一緒に情報モラルについて学ぶことができ、大切なことを共通理解することができた。</p> <p>●年間計画に沿って計画的に取組を進めていくため、資料やデータを整理する必要がある。</p>	<p>①家庭科、野菜作り、地域の自然や歴史の学習において地域の人材を積極的に活用する。</p> <p>②地域にある資源を教材化し、地域をより知っていく教育を進める。</p>	<p>・自分が住んでいる地域の歴史に触れることができ、とてもよい勉強ができたと思う。</p> <p>・今後も地域のことを調べる学習を進めてほしい。</p>	A

<p>(3) 子どもたちの地域行事への参加や地域の諸活動への協力を大切にします</p>	<p>①公民館・青少年育成町民会議や子ども会と連携し、地域行事に主体的に子どもたちが参加できるよう協力します。</p> <p>②中学校との連携を工夫し、地域で活躍できる子どもを育てます。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釜戸町文化祭で4・5年の合唱を、ひなたぼっこの集いでは4年生の合唱を披露し、地域で発表した。</li> <li>○ひなたぼっこの会や陶生苑訪問では、お年寄りとの関わり方を考えながら行動する姿があり、主体的に関わろうとする心の育ちを感じた。</li> <li>○地域行事に児童が参加するよう学校としても働きかけることで、子ども会の活動（盆踊り練習、ドッジボール大会、節分会など）に児童が積極的に参加していた。</li> <li>○夏祭りや文化祭では、地域に貢献することの意味を考えるよう児童に働きかけることで、主体的に取り組むことができた。発表の場を通して自信をもつことができています。</li> <li>●今後も、地域の願いを理解し、児童が意欲をもって活動に参加できるようにしていく必要がある。</li> <li>●中学校の統合を見据えながら、小学校としての役割を考えていく必要がある。</li> </ul>	<p>①公民館・青少年育成町民会議や子ども会と連携し、地域行事に主体的に子どもたちが参加できるよう協力する。</p> <p>○中学校統合を前に、高学年は地域行事への主体的に参加できるよう、意識を高める指導を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事に子どもが積極的に参加しているのは学校のおかげだと思う。</li> <li>・地域行事に子どもが参加することで活気が出る。</li> <li>・31年度中学校の統合に向かって、地域と考えていく必要がある。</li> </ul>	<p>A</p>
<p><b>【学校関係者評価を受けての学校の改善策】</b></p> <p>①家庭教育週間の内容を学年の発達段階に応じて改善し、ねらいを明確にして主体的に取り組むことができるようにする。</p> <p>②家庭の生活づくりの意識を高めるためにPTAと連携し、講演会、懇談会等で啓発していくことができるようにする。</p> <p>③地域での子ども達の役割を考え、積極な行事への参加ができるように指導する。</p>						